

苗場山麓 ジオパーク

Vol.
80

振興協議会だより

〔発行日〕令和8年8月31日
〔発行〕苗場山麓ジオパーク推進室
〔お問い合わせ〕025-765-1600



苗場山麓ジオパーク振興協議会 新会長のご挨拶

皆さん、こんにちは。このたび、苗場山麓ジオパーク振興協議会会長に就任いたしました、津南町長の根津和博と申します。前職は副町長を務めており、当振興協議会の委員として、商品開発部会に所属しておりました。趣味は読書と健康・体力維持のため行っているポールウォーキングです。どうぞよろしくお願いいたします。

職員時代、観光の仕事に携わったことがあります。まだ、ジオパークという名前さえ知らない時代でしたが、苗場山登山道の刈り払いと山開き記念登山、萌木の里を起点とし、猿飛橋や結東石垣田もルートに入る秋山郷ウォークなど、現在のジオサイトにも触れるイベントを企画、実施し、自分自身も楽しんでいただけた思い出があります。

時を経て、平成26年12月22日、苗場山麓ジオパークが日本ジオパークに認定されることが発表されました。当時、総務課に所属していた私は、町長室で上村憲司元町長が認定の電話を受け、集まっていた関係者と抱き合って喜びを爆発させ、万歳をしたことを覚えています。

認定を受け、外部からも苗場山麓ジオパークは貴重な資源ということを認識いただき、以後、様々な取り組みを行ってまいりました。印象に残っているのは、小学校の子どもたちが、様々なかたちでジオパークを応援し、その一つとして、ジオパークのPRソング「Takaramono」が生まれ、平成27年の町制施行60周年記念式典で歌ってくれたことです。「津南はただのいなかじゃないのさ、あふれる自然の中、生まれた奇跡の大地、苗場山麓ジオパーク、僕らが未来の津南を創る」、この歌を聞いたとき、本当に感動しました。次の世代に向け、苗場山麓のタカラモノを守り、つなぎ、育てていきたいと強く思ったところです。

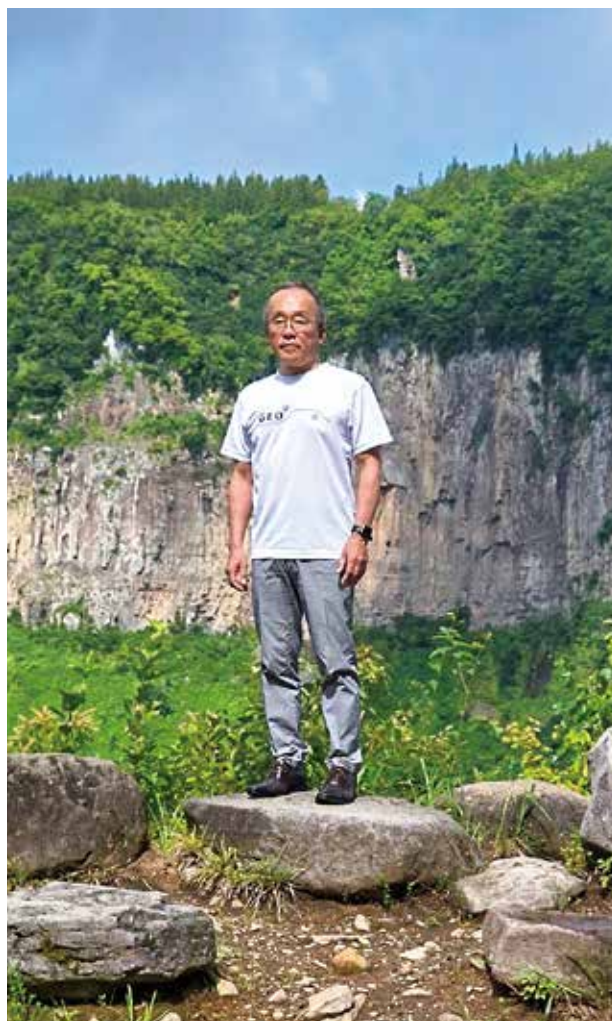
さて、本年は、4年に一度の再認定審査を受ける大変重要な年であり、11月13日から15日にかけて、ジオパーク調査員による現地調査が予定されています。いままでの活動実績をもとに、基本理念として掲げております、保全と教育を前面に出し、再認定に臨んでまいりますので、関係者の皆さまのご指導、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

結びに、苗場山麓ジオパーク振興協議会の更なる飛躍をお祈りし、会長就任の挨拶とさせていただきます。

新会長と共にジオパーク活動をより一層推進していきます。

見どころ・学びどころいっぱいの苗場山麓ジオパークの情報がホームページでご覧いただけます。ぜひチェックしてみてください。

ホームページはこちら→ <https://naeba-geo.org>



新会長と石落とし





苗場山麓ジオパーク再認定審査・現地調査員のご紹介

苗場山麓ジオパークは、平成 26 年の認定から早くも 12 年目となり、今秋 3 回目の再審査を迎えます。

日本ジオパークの認定には、4 年に 1 度、再審査があります。再審査は、4 年間の活動をプロGRESSレポートにまとめ、自己評価シートとそれに伴う添付資料を日本ジオパーク委員会に提出します。それを受けて、11 月 13 日～15 日まで 3 日間のスケジュールでお二人の現地調査員をお迎えし、現地確認および説明を行います。その後、日本ジオパーク委員会にて審議が行われます。前回（令和 4 年）の審査で、評価いただいた点の向上・維持に努め、課題へのアプローチについて再確認を行い、これまでの活動に誇りを持ち、これからの活動を進めていきます。

苗場山麓ジオパークをいつも支えてくださる地域の皆様、再認定（グリーンカード）取得に向けてご声援のほどよろしくお願いいたします。



苗場山麓ジオパークへようこそ！～調査員の先生方をご紹介～



中田 節也（なかだ せつや）先生

<プロフィール>

日本ジオパーク委員会委員 東京大学名誉教授
ご専門は、火山岩石学・火山地質学

<苗場山麓ジオパークへ一言>

地域住民が参画し、教育が盛んな、まとまったジオパークとの印象を持っていますが、今後、ジオパークとして何をを目指したいと考えているのか知りたいです。



吉岡 敏和（よしおか としかず）先生

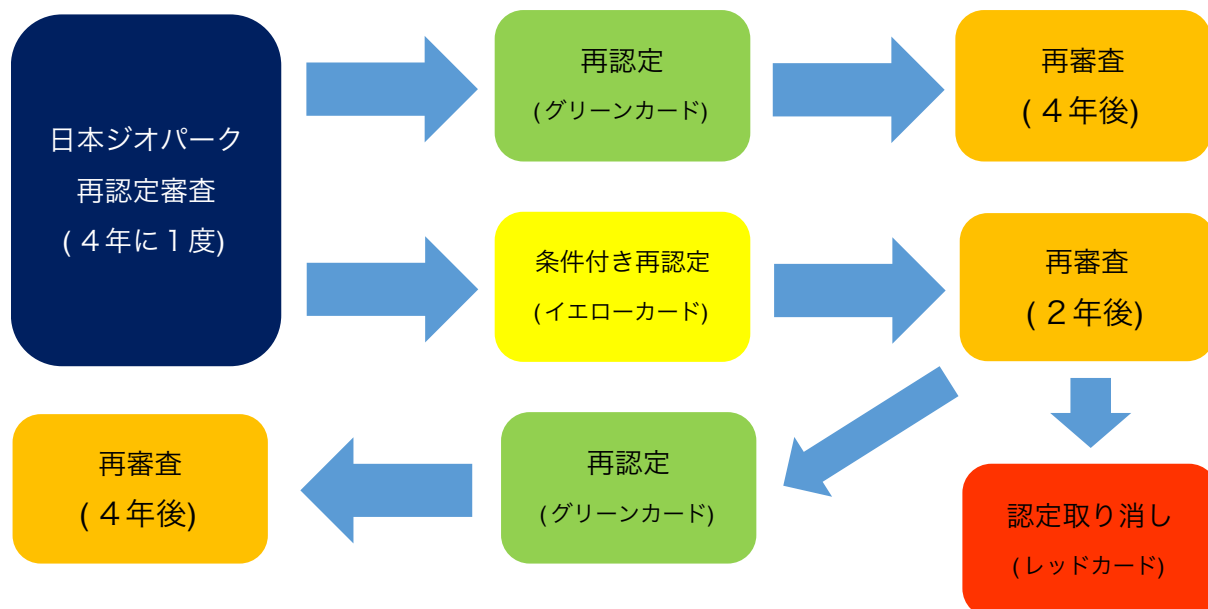
<プロフィール>

おおいた豊後大野ジオパーク推進協議会 専門員
ご専門は、地質学・地形学

<苗場山麓ジオパークへ一言>

苗場山麓ジオパークは地域のみなさん全員で盛り上げているジオパークという印象があります。かの火焰型土器のふるさとに会えることを楽しみにしています。

ジオパーク再認定審査フローチャート



認定ジオガイド
が伝える

ここが好きだよジオパーク

認定ジオガイドがおすすめの場所、もの、ことなどを紹介していきます。

〰ジオありて人のあり、
(ガイドナンバー77 根津 東六さん)

根津 東六さん (91才)

糸魚川ユネスコジオパーク検定第1号取得
縄文初級・中級検定第1号取得



私は、十日町駅西の真ん前に住んでいますが、ずーっと津南町ファンなんです。「津南にはジオありて人のあり」この悠久の自然の中に抱かれ、育まれて得た叡智と優れた人間性をもった津南人を私は敬愛し、実に楽しく親交を深めてきました。

では、ガイドマップ掲載のジオ絶景スポット「信濃川右岸からの展望地」(MAP E-2)をご紹介します。名峰甲武信ヶ岳を源流に千曲川は高田方面の海へ流れ出ていたが、関田山脈などが隆起し、塞がれて現津南へと向きが変わり、およそ40万



苗場山麓ジオパーク
ガイドマップ



眼下に大河信濃川と対岸に外丸集落の展望地

年から30万年前には津南を起点とする信濃川が形成されました。あの広大な越後平野の土石を、瞬時も休む間もなく運び続けて今に至る日本一の偉大な母なる大河信濃川の本流が、外丸の基盤「凝灰角礫岩」の固い地層に当たって、東向きに大きく変わり、自分の立っている右岸の崖下標高約255mの眼下に俯瞰できるのです。眼(まなこ)を上げれば、はるか上流の風景と下流は崖を削りつつ西向きに変わり、北へと蛇行する様子が一目瞭然なのです。

しかし、通常20t/毎秒程度の流量では、到底、大河信濃川なんて云えない。ダム取水が無ければ300t-400t/毎秒で魚の宝庫となることは銘記すべきでしょう。何故なら「この十日町(津南)では、サケやマスがふんだんに取れて、くんせいや加工場があり、あの国宝を生んだ縄文の王国があった」(梅原猛著・『日本の霊性』)というわけですから。

更に、対岸の田原や氷山の麓の外丸集落を一巾の絵画として眺めると、その中に在るであろう名利善政院と御曹司・滝沢強一君を思うのです。彼は寺を出て国立教育大卒後、県立新潟高校の名校長と言われ、県下校長会長も兼ね活躍しながら、私に古町のスナックで涙をにじませながら、県下の進学率が全国でワーストレベルであることを強く悩み、悔やんで熱く語ったが、おそらく現在は、津南中等教育学校の進学業績を仏界で安堵し、賛辞を贈っているのではないか。



正面ヶ原D遺跡(新潟県最古・人類の痕跡)

次なるお薦めサイトは、国道を挟んで東側に面した新潟県最古の「正面ヶ原D遺跡」(MAP E-2)。およそ3万年前の人類の痕跡である局部磨製石斧19点をはじめ、多様な石材を用いた約500点にも及ぶ貴重な石器が出土発見され、人類史考古学的に極めて重要な資料として「津南町埋蔵文化財センターうもれあ」に常設展示されております(旧石器時代の磨製は謎といわれています)。是非ご覧ください！

ただ残念なのは、現地の中心には精米所があるだけ。せめて石碑か絵看板が観光協会の前辺りでもあって欲しい。ジオサイトは現地保存、あるいは雰囲気の確認できることも大事と望みます。

実は、この正面の津南小学校裏手に、長年住んでいた親友滝沢菊三郎君(元津南町社会教育課長)は、秋山郷のご出身で、子供の頃、ジオサイト「見玉の古型マンモス臼歯化石」(とは知らず)を、中津川へのもっぱら飛込みの踏切台にして泳いで遊んでいたとのこと。晩年、「一牧之の尻につかまって」と題した北越雪譜の探訪記を「津南学」に寄稿し、脱稿する毎に、「東六、これ読んでみてくれや…」と、校正をさせる愉快的チャッカリ男でした。秋山郷を生々しく語れる最後の古老(享年88)でした。私にとって、いわばジオサイトがらみの素敵な津南男2人を失い、寂しい限りだ。

お知らせ

9月12日(土) 9:00~13:00 ジオラフティング 定員:12名 参加費:3,000円 ご好評につき、定員に達したため申込受付を終了しました
11月13日(金)~15日(日) 苗場山麓ジオパーク再審査・現地調査 ※詳細は苗場山麓ジオパーク推進室(☎025-765-1600)まで



突撃しよう！となりのジオ便利～喜界島ジオパークからこんにちは～(喜界島ジオパーク推進協議会 事務局員 土屋 純子)

鹿児島県奄美群島の一つ、喜界島は周囲約 48.6km、面積 56.9km²の小さな島です。奄美大島とは約 20km しか離れておらず、両島を結ぶ約 20 分の飛行機は「日本一短い航空路線」として知られています。

この小さな島は、世界有数の速度で隆起を続けるサンゴ礁の島です。約 170 万年前には海底に泥や砂が堆積し、その後にサンゴが生息してサンゴ礁が発達しました。隆起と海水準変動を繰り返しながら現在の喜界島が形づくられました。階段状に広がる段丘は、過去の地球環境の変化が刻まれており、島全体がまるで地球の歴史を物語る展示室のようです。こうした地質学的価値が評価され、2024 年には「喜界島の隆起サンゴ礁段丘」が国際地質科学連合 (IUGS) の世界地質遺産に選ばれ、2025 年 10 月には日本ジオパークに認定されました。日本で初めてサンゴ礁を主な地質とするジオパークであり、日本最南端の日本ジオパークでもあります。

喜界島では、サンゴ礁に根差した大地の成り立ちが人々の暮らしや文化を育んできました。約 8,000 年前の縄文時代からの遺跡が残り、平安時代の南島特産品である夜光貝は螺鈿細工の原材料として重宝されていました。現在でもたくさん採れる海の幸で、交易品の夜光貝は岩手県の中尊寺金色堂に代表される螺鈿細工の材料として珍重されました。また、南西諸島では唯一製鉄を行っており、交易の拠点として栄えていました。15 世紀には攻めて来た琉球王国と戦い敗れ、その一部となり、その後には薩摩藩の支配とサトウキビのプランテーション化、鹿児島県への編入、戦後は米軍統治下を経て日本へ復帰するなど、島は時代ごとにさまざまな歴史を刻んできました。

これらの歴史とともに、今なお息づく、サンゴの石垣や湧水を利用した暮らし、島の地質・地形を利用して造られた地下ダムを活用したサトウキビや白ごまなどの農業なども、この島ならではの自然と深く結び付いています。

喜界島ジオパークでは、「大地・自然・文化・暮らし」を未来へつなぐ活動を進めています。この活動は、「まず、島のことを島の人に知ってもらいたい!」という思いからスタートしました。学校給食で島の恵みや文化を食べて学ぶ「ジオパクパク!給食」、島の人に喜界島について深く知ってもらうために「喜界島のジオ(大地)を知る公民館講座」も開設しています。島内外の人々に魅力を伝えるジオツアーやガイド活動、防災に活かすなど様々な角度からジオパーク活動を行っています。

小さな島だからこそ、大地と人との距離が近い。喜界島では、足元の岩やサンゴが、自然の物語だけでなく、人々の歴史や暮らしも語りかけてくれます。ぜひ一度、この「隆起するサンゴ礁の島」を訪れ、その魅力を体感してください。



テーブルバンダ 喜界島



ハマサンゴ



公民館講座



中津川左岸トレッキング・LNT（環境倫理プログラム）実践

7月20日(月・祝)、一般のかたを対象に津南町埋蔵文化財センター「うもれあ」で、LNT ワークショップ開催後、中津川左岸トレッキングを実施しました。トレッキング前のワークショップでは、準備する持ち物の中で、飲み物や行動食をできるだけコンパクトにして野外でゴミを極力出さないことを学びました。「うもれあ」でワークショップを終え、バスに乗り、出発地点の「石坂のお堂」から総勢13名でトレッキングを開始しました。

トレッキングコース内におけるワークショップでは、「急に便意を催したとき」を想定し、トイレテクニックのレクチャーを受けました。まず、登山道から60m以上離れ、大樹の近くを避け、腐植土の部分20cmくらい穴を掘り、用を足したら土をかぶせ落ち葉で覆い、別の人が掘り返さないために上から木の棒をさしておくなどのノウハウを学びました。

LNTの7原則は、1.事前の計画と準備 2.影響の少ない場所での活動 3.ゴミの適切な処理 4.見たものはそのままに 5.最小限のたき火の影響 6.野生動物の尊重 7.他のビジターへの配慮 と分かりやすく表されています。アメリカ発祥のプログラムとして世界各国で展開され、カナダ、アイルランド、ニュージーランド、日本などパートナーシップが結ばれています。日本国内でLNTに関する実践は、苗場山麓ジオパークが先駆けとなっています。今後もこのプログラム実践を積み重ねていきたいところです。

Leave No Trace Japan(リープノートレイス・ジャパン)公式ホームページは、こちらのQRコードからご覧ください



やむを得ず緊急時においての山でのトイレについて学ぶ